

令和2年度事業報告

{ 自 令和2年 1月 1日 }
{ 至 令和2年 12月 31日 }

一般社団法人 日本養蜂協会

I 会 議

1. 総 会

第79回通常総会

日 時：令和2年2月26日（水）10:00～12:00

場 所：東京都千代田区大手町 KKRホテル東京「瑞宝の間」

議 長：中西一巳（静岡県）

議事録署名人：綿鍋淳（山口県）、荒巻輝雄（福岡県）

出席議決権数：総数47会員のうち46会員（書面出席9団体、委任出席5団体）

報告事項

- （1）平成31・令和元年度事業報告に関する件
- （2）令和2年度事業計画に関する件
- （3）令和2年度正味財産増減予算書に関する件

議事

第1号議案：平成31・令和元年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認の件

第2号議案：令和2年度会費の賦課方式及び基準に関する件

第3号議案：定款の一部変更に関する件

2. 養蜂振興検討会

日 時：令和2年2月25日（火）15:00～17:00

場 所：東京都千代田区大手町 KKRホテル東京「孔雀の間」

出席者：全国会員団体代議員、日蜂協理事及び監事

3. 理事会及び委員会

（1）第267回理事会

日 時：令和2年2月4日（火）13:30～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、夢田光文、佐野友治、中村公光

出席者数：15名

議 事

- ①第 266 回理事会議事録の確認について
- ②第 79 回通常総会等の運営について
 - ・ 総会提出議案について
 - ・ 公益目的支出計画実施報告（案）について
 - ・ 養蜂振興検討会及び総会の運営について（案）
 - ・ 今後の会議日程について（案）
- ③会員の退会及び入会について
- ④その他

（２）第 268 回理事会

日 時：令和 2 年 2 月 26 日（水）12:10～13:00

場 所：東京都千代田区大手町 KKR ホテル東京「鳳凰の間」

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、茅田光文、佐野友治、中村公光

出席者数：15 名

議 事

- ①第 267 回理事会議事録の確認について
- ②総会及び養蜂振興検討会において提案又は検討された事項について
- ③今後の会議日程について
- ④その他

（３）第 269 回理事会（新型コロナウイルス感染防止のため書面開催）

期 間：令和 2 年 4 月 20 日（月）～6 月 15 日（火）

議事録作成者：山時丈昌

議案配布役員：16 名

議 事

- ①第268回理事会議事録の確認について
- ②令和2年度事業の具体的進め方について
- ③その他

（３）第 270 回理事会（新型コロナウイルス感染防止のため書面開催）

期 間：令和 2 年 9 月 15 日（火）～10 月 26 日（月）

議事録作成者：山時丈昌

議案配布役員：16 名

議 事

- ①第269回理事会議事録の確認について
- ②令和2年度事業の進捗状況について

③令和2年度事業の中間監査について

④その他

(4) 第271回理事会

日 時：令和2年12月22日（火）10:00～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、笏田光文、佐野友治、中村公光

出席者数：11名

議 事

①第271回理事会議事録の確認について

②養蜂議員連盟総会及び令和3年度国庫補助事業養蜂等振興強化推進事業について

③各委員会からの報告について

④令和3年度事業計画（案）及び令和3年度予算（案）について

⑤その他

4. 監事監査会

(1) 平成31・令和元年決算定期監査（平成31年1月1日～令和元年12月31日）

日 時：令和2年1月27日（月）9:30～15:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館日蜂協会議室

出席者：（監 事）笏田光文、佐野友治、中村公光

（執行部）副会長 羽佐田康幸

（事務局）常務理事 山時丈昌、課長 競まゆみ、主任 谷口貴春、

主任 喜多佑丞

（税理士）小林昌孝

(2) 令和2年上期中間監査（令和2年1月1日～令和2年6月30日）

（新型コロナウイルス感染防止のため書面開催）

期 間：令和2年8月5日（水）～8月11日（火）

書面監査：（監 事）笏田光文、佐野友治、中村公光

5. 花粉交配用蜜蜂情報交換会開催

日 時：令和2年1月7日（火）14:00～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館日蜂協会議室

出席者：

①花粉交配用蜜蜂販売会社（順不同）

・アピ株式会社養蜂部 ミツバチ課長 今井弘一

・株式会社秋田屋本店養蜂部 副部長 丹羽康徳

- ・株式会社秋田屋本店養蜂部 係長 堀江真一郎
- ・片倉工業株式会社生物科学研究所業務課 上席主任 大波 健
- ・有限会社間室養蜂場 代表取締役社長 間室 治
- ・有限会社西岡養蜂園 代表取締役社長（兼日蜂協第2委員長代理）西岡千年

②一般社団法人日本養蜂協会

- ・副会長 羽佐田康幸
- ・副会長 柳下浩幸
- ・常務理事 山時丈昌
- ・理事（第1委員長） 種田敏徳
- ・理事（第3委員長） 中田茂富

6. 養蜂振興における基本計画について打ち合わせ

日 時：令和2年10月8日（木）11:00～17:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

出席者：（役 員）副会長 羽佐田康幸、副会長 柳下浩幸、理事 種田敏徳
（事務局）主任 谷口貴春、主任 喜多佑丞、職員 岩橋康太

Ⅱ 補助事業

1. 国庫補助事業 養蜂等振興推進事業

(1) 平成 31 年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）

①【長崎】養蜂技術指導講習会

日 時：令和 2 年 1 月 14 日（火）13:00～16:00

場 所：長崎県長崎市 長崎県庁大会議室

参加者：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会会員等）

- 講 義：1. 座学講義 1 「ダニが原因となる疾病に関する衛生管理技術」
講師＝国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 主席研究員 木村 澄
2. 座学講義 2 「養蜂における衛生管理～消毒技術」
講師＝国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 主席研究員 木村 澄
3. 実技講義 1 「微酸性電解水を用いた衛生管理技術」
デモンストレーション＝株式会社ホクエツ
4. 情報提供 1 「タイラン水溶散の使用に当たっての留意事項」
情報提供者：農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課
5. 情報提供 2 「ダニ駆除剤 チモバール」
情報提供者：アリスタヘルスアンドニュートリションサイエンス
6. 質疑応答

①【和歌山】養蜂技術指導講習会

日 時：令和 2 年 1 月 24 日（金）13:00～16:00

場 所：和歌山県岩出市 和歌山県那智振興局

参加者：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会会員等）

- 講 義：1. 座学講義 1 「ダニが原因となる疾病に関する衛生管理技術」
講師＝国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 主席研究員 木村 澄
2. 座学講義 2 「養蜂における衛生管理～消毒技術」
講師＝国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 主席研究員 木村 澄
3. 実技講義 1 「微酸性電解水を用いた衛生管理技術」
デモンストレーション＝株式会社ホクエツ
4. 情報提供 1 「タイラン水溶散の使用に当たっての留意事項」
情報提供者：農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課
5. 情報提供 2 「ダニ駆除剤 チモバール」
情報提供者：アリスタヘルスアンドニュートリションサイエンス
6. 質疑応答

③第3回養蜂技術指導推進委員会

日 時：令和2年3月3日（火）13:30～15:30

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

委 員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 主席研究員 木村 澄（委員長）

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂

福岡県農林総合試験場資源活用研究センター 副センター長 浅田研一

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 研究員 荻原麻理

宮城県農政部畜産課生産振興班 技術主幹 加藤里子〈欠席〉

茨城県農林水産部畜産課 技師 西野景知〈欠席〉

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課畜産衛生グループ 主査 中西啓司

和歌山県農林水産部農業生産局畜産課 主査 角川敬造

愛媛県農林水産部農業振興局畜産課 係長 徳永康子

長崎県農林部畜産課 主事 狩野良介〈欠席〉

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

神奈川県養蜂組合 副組合長 柳下浩幸

宮城県養蜂協会 会長 石塚武夫

茨城県養蜂協会 会長 大畑 孝〈欠席〉

大阪府養ほう農業協同組合 稲田 治

和歌山県養蜂協会 副会長 中村誠一

愛媛県養蜂協会 会長 吾野真史

長崎県養蜂協会 会長 清水美作〈欠席〉

事務局：

（一社）日本養蜂協会 常務理事 山時丈昌

議 事：

平成31年度ダニ被害実態調査報告について

平成31年度養蜂技術指導講習会について

平成31年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）の成果について

（2）令和2年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募事業）

①第1回養蜂技術指導推進委員会（新型コロナウイルス感染防止のため書面開催）

日 時：令和2年7月

委 員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 再雇用研究員 木村 澄（委員長）
玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純
国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂
福岡県中央家畜保健衛生所 技術主査 浅田研一
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 研究員 荻原麻理
東京都養蜂協会会員兼ビーハイブジャパン 代表取締役獣医師 渡辺 宏
アリストヘルスアンドニュートリションサイエンス株式会社 崎山拓治
青森県農林水産部畜産課 技師 竹内紫穂
山形県農林水産部畜産振興課 課長補佐 高橋斉史
東京都産業労働局農林水産部農業振興課畜産振興担当 主任 田村哲生
三重県農林水産部畜産課畜産振興班 技師 木村紘斗
広島県農林水産局畜産課 主任 小野恵理子
熊本県農林水産部生産経営局畜産課 参事 佐田千絵美
鹿児島県農政部畜産課中小家畜係 主事 山下花菜実
愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸
神奈川県養蜂組合 副組合長 柳下浩幸
青森県養蜂協会 会長 鳥谷部栄作
山形県養蜂協会 会長 鈴木新栄
東京都養蜂協会 理事 原田誠一郎
三重県養蜂協会 会長 水谷俊介
広島県養蜂組合 組合長 升田幸司
熊本県養蜂組合 組合長 西岡千年
鹿児島県養蜂協会 会長 加藤 栄

事務局：

（一社）日本養蜂協会 常務理事 山時丈昌

議 事：

令和２年度養蜂技術指導講習会の開催
養蜂技術指導手引書の作成
ダニ被害実態調査

②第２回養蜂技術指導推進委員会（新型コロナウイルス感染防止のため書面開催）

日 時：令和２年 10 月

委 員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 再雇用研究員 木村 澄（委員長）
玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純
国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂

福岡県中央家畜保健衛生所 技術主査 浅田研一

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 研究員 荻原麻理

東京都養蜂協会会員兼ビーハイブジャパン 代表取締役獣医師 渡辺 宏

アリストヘルスアンドニュートリションサイエンス株式会社 崎山拓治

青森県農林水産部畜産課 技師 竹内紫穂

山形県農林水産部畜産振興課 課長補佐 高橋斉史

東京都産業労働局農林水産部農業振興課畜産振興担当 主任 田村哲生

三重県農林水産部畜産課畜産振興班 技師 木村紘斗

広島県農林水産局畜産課 主任 小野恵理子

熊本県農林水産部生産経営局畜産課 参事 佐田千絵美

鹿児島県農政部畜産課中小家畜係 主事 山下花菜実

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

神奈川県養蜂組合 副組合長 柳下浩幸

青森県養蜂協会 会長 鳥谷部栄作

山形県養蜂協会 会長 鈴木新栄

東京都養蜂協会 理事 原田誠一郎

三重県養蜂協会 会長 水谷俊介

広島県養蜂組合 組合長 升田幸司

熊本県養蜂組合 組合長 西岡千年

鹿児島県養蜂協会 会長 加藤 栄

事務局：

(一社) 日本養蜂協会 常務理事 山時丈昌

議 事：

令和2年度養蜂技術指導講習会

令和2年度養蜂技術指導手引書の作成

令和2年度ダニ被害実態調査

③【広島】養蜂技術指導講習会

日 時：令和2年12月2日（水）13:00～16:00

場 所：広島県福山市 広島県福山庁舎第3庁舎 381・382 会議室

参加者：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会員等）

講 義：1. 座学講義1「ダニが原因となる疾病に関する衛生管理技術」

講師＝国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 再雇用研究員 木村 澄

2. 座学講義2「養蜂における衛生管理～消毒技術」

講師＝国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域 再雇用研究員 木村 澄

3. 実技講義1「微酸性電解水を用いた衛生管理技術」
デモンストレーション＝株式会社ホクエツ
4. 情報提供1「はちみつ製造におけるHACCP導入手引書」と「蜂蜜の採蜜衛生管理台帳」
情報提供者：一般社団法人日本養蜂協会
5. 情報提供2「ダニ駆除剤 チモバール」
情報提供者：アリスタヘルスアンドニュートリションサイエンス
6. 質疑応答

④【鹿児島】養蜂技術指導講習会

日 時：令和2年12月11日（金）14:00～16:00

場 所：鹿児島県鹿児島市 鹿児島県庁7階 7-A-2 会議室

参加者：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会員等）

- 講 義：1. 座学講義1「ダニが原因となる疾病に関する衛生管理技術」
講師＝玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純
2. 座学講義2「養蜂における衛生管理～消毒技術」
講師＝玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純
3. 情報提供1「はちみつ製造におけるHACCP導入手引書」と「蜂蜜の採蜜衛生管理台帳」
情報提供者：一般社団法人日本養蜂協会
4. 情報提供2「ダニ駆除剤 チモバール」
情報提供者：アリスタヘルスアンドニュートリションサイエンス
5. 質疑応答

2. 日本中央競馬会 畜産振興事業（JRA事業）

（1）平成31年度みつばち腐蛆病予防薬活用等調査研究事業

①第2回みつばち腐蛆病予防薬活用等推進委員会

日 時：令和2年3月10日（火）13:30～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

委 員：

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸（委員長）

国立大学法人東京農工大学大学院 農学研究院 動物生命科学部門

農学部獣医学科 准教授 佐々木一昭

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門

細菌・寄生虫研究領域 病原機能解析ユニット ユニット長 高松大輔

神奈川県養蜂組合 副組合長 柳下浩幸

オブザーバー：

農林水産省消費・安全局動物医薬品検査所 企画連絡室審査調整課

主任研究官 小形智子

一般社団法人日本科学飼料協会 科学飼料研究センター 試験業務部

部長代理 篠崎浩和氏代理 主任 青木健

一般社団法人日本科学飼料協会 科学飼料研究センター 試験業務部

七五三野真希

エランコジャパン株式会社 開発薬事部長 福本一夫

来 賓：

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課 生産安全班 課長補佐 西田岳史

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課 生産安全班 内山重輝

事務局（中核機関）：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 山時丈昌

事務局（共同機関）：

一般財団法人生物科学安全研究所 理事長 濱岡隆文

一般財団法人生物科学安全研究所 参与 宮崎 茂氏代理

執行役員 野田篤

一般財団法人生物科学安全研究所事業部 事業推進担当部長 内田一成

一般財団法人生物科学安全研究所事業部 首席研究員 永田尚子

議 事：

平成31年度みつばち腐蛆病予防薬活用等調査研究事業について

① タイラン水溶散（粉糖）のみつばちにおける残留試験の実施報告

② タイラン水溶散（ペースト剤）のみつばちにおける残留試験の実施報告

③ みつばち腐蛆病予防薬活用等調査研究事業 達成目標の検証と自己評価

(2) 令和2年度蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査事業

①第1回蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査推進委員会
(新型コロナウイルス感染防止のため書面開催)

日 時：令和2年8月

委 員：

東京農工大学 名誉教授 国見裕久（委員長）

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

中央農業研究センター虫・鳥獣害研究領域上級研究員 村上理都子

福岡県中央家畜保健衛生所 技術主査 浅田研一

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

国立大学法人筑波大学生命環境系 講師 松山 茂

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

オブザーバー（委託先）：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域

上級研究員 芳山三喜雄、研究員 荻原麻理、再雇用研究員 木村 澄

議 事：

蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査事業について

蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査方法等について

その他

②蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査事業 現地調査

日 時：令和2年9月27日（月）

場 所：茨城県内養蜂場（つくば市、石岡市、桜川市）

協力者：茨城県養蜂協会（会長 大畑 孝、山田養蜂場、山田広司）

調査員：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門 家畜育種繁殖研究領域

研究員 荻原麻理、再雇用研究員 木村 澄

事務局：一般社団法人日本養蜂協会 主任 谷口貴春

Ⅲ 公益目的支出計画に係る実施事業

平成 26 年 1 月 6 日の一般社団法人移行に伴い、平成 26 年 1 月 5 日の一般正味財産期末残額高 171,887 千円の財源をもって、公益目的支出計画に係る実施事業として、次の 4 事業に取り組むこととしている。

なお、計画上の完了見込みは平成 35 年 12 月 31 日。平成 31 事業年度末日における公益目的財産残額は、43,961,895 円となっている。

1. 養蜂に係る環境整備事業

蜂製品の生産振興を支援することにより、花粉交配用蜜蜂が安定供給され、農業の安定的な生産・効率化に大きく貢献するとともに、国民の食生活の向上と健康の増進に寄与することを目的とし、次の事業内容とした。

なお、実行にあたっては、緊急性の高い内容から優先的に取り組む（以下 2、3、4 の事業についても同じ）。

（1）養蜂経営の安定（生産振興）事業等の支援

国庫補助事業、日本中央競馬会畜産振興事業等の推進と併せて、支援及び関連事項の調査等に取り組む。

① 国庫補助事業

ア. 平成 31 年度養蜂等振興強化推進事業

・全国推進事業

蜜蜂の衛生・飼養管理等の技術指導者が、蜜蜂飼育者に対して指導する衛生・飼養管理技術としての消毒技術及びダニが原因となる疾病に関する衛生管理技術の普及を目的とした養蜂技術指導講習会を、1 月 14 日に長崎県、1 月 24 日に和歌山県で開催した（前年 11 月 8 日に大阪県、12 月 9 日に愛媛県、12 月 13 日に茨城県でも開催）。また、3 月 3 日に第 3 回養蜂技術指導推進委員会を開催した。

事業により作成された養蜂技術指導手引書 V「養蜂における衛生管理ダニ防除技術 改訂版」は、都道府県畜産課及び日蜂協会員へ配布し、ホームページにも掲載した。

イ. 令和 2 年度養蜂等振興強化推進事業

・全国公募

平成 31 年度に引き続き、令和 2 年度も当該事業に日蜂協が応募し、採択された。本年度は、各地域の蜜蜂の衛生・飼養管理等の技術指導者が、蜜蜂飼育者に対して指導するための養蜂技術指導講習会の開催等を支援し、併せてダニによる被害の実態調査を実施する。また、養蜂家、行政機関、学識経験者等からなる養蜂技術指導推進委員会を開催し、講習会の開催及び養蜂技術指導手引書の作成並びにダニ被害実態調査について指導助言を

行う。

さらに、養蜂技術指導講習会を青森県、東京都、三重県、広島県、熊本県、鹿児島県の全国 6 か所で開催する計画とし、広島県（12 月 2 日）、鹿児島県（12 月 11 日）は開催した。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い令和 3 年 1 月に緊急事態宣言が発令されることを考慮して、青森県はリモート開催に変更し、東京都、三重県、熊本県は中止の予定。開催した養蜂技術指導講習会の開催は新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、各会場の参加者は県内参加者のみに案内し、実施した。

・地域公募

a. 蜜源植物の植栽支援事業（農林水産省畜産振興課担当）

養蜂振興法の蜜源植物の保護増殖、蜂群配置の適正等を図るための都道府県の措置等を目的として、蜜源植物の植栽の支援を行い、養蜂業の振興を図ることとしている。

全国で 7 地区の協議会が採択され、実施されているとのこと。

b. 花粉交配用蜜蜂の安定調達支援事業（農林水産省園芸作物課担当）

園芸農家と養蜂家が連携した花粉交配用蜜蜂の安定調達の取組を支援することで、需給の安定を図ることとしている。

② 日本中央競馬会畜産振興事業（JRA 事業）

ア. 平成 31 年度みつばち腐蛆病予防薬活用等調査研究事業

蜜蜂腐蛆病予防薬タイラン水溶散の蜂蜜への移行に関する調査を行い、日本の蜜蜂の飼養実態に即した使用上の留意事項の策定及び残留基準値の検討に必要なデータの収集と分析並びにペーストによる投与方法の検討に必要なデータの収集と分析を行うため、平成 30～31 年度の 2 年間事業として、日本養蜂協会が事業実施主体となり、一般財団法人生物科学安全研究所（共同機関）と共同で実施した。

3 月 10 日に第 2 回みつばち腐蛆病予防薬活用等推進委員会を開催し、試験結果の報告及び事業開始時に設定した目標の達成状況等を検証した。また、残留試験で収集したデータ等を取りまとめた試験報告書をタイラン水溶散のペーストによる投与方法の追加承認申請を行うエランコジャパン株式会社に提供した。

イ. 令和 2 年度蜜蜂のダニ寄生とウイルス感染率の実態調査事業

ミツバチヘギイタダニ及びダニ寄生による蜜蜂のウイルス感染についての実態調査を実施する事業内容で応募し、採択された。

第 1 回事業推進委員会は、新型コロナウイルス感染防止のため書面による開催とし、事業の計画及び達成目標等について事業推進委員より指導・助

言があった。

また、9月27日（月）に、茨城県内養蜂家の協力のもと、現地調査を実施した。

（２）養蜂経営安定

後継者育成対策として、全国養蜂青年大会や各ブロックの養蜂青年部で開催する研修会等を支援する。

① 後継者支援

青年部育成費として、1ブロック当たり55千円を支援した。また、令和2年1月21日～22日に愛媛県松山市「ANAクラウンプラザホテル松山」で開催された第5回全国養蜂青年大会には100万円を支援し、羽佐田副会長、山時常務、光源寺理事、中田理事が日蜂協として出席した。

② 経営継続補助金

新型コロナウイルス感染症の影響を克服するために、感染拡大防止対策を行いつつ、販路回復・開拓や事業継続・転換のための機械・設備の導入や人手不足解消の取組を総合的に支援することによって地域を支える農林漁業者の経営の継続を図るために、令和2年度第2次農林水産関係補正予算において予算措置された。この補助事業は、全国農業会議所を事業実施主体として事業が公募されたが、支援機関による伴走支援が必須となっていることから、日蜂協は全国農業会議所と契約を結び支援機関となり、補助金の申請者である協会の会員構成員が作成した申請書を確認し、「支援機関確認書」の発行事務などを行った。

（３）養蜂振興情報提供

パンフレットやホームページ等を利用して、蜜蜂の適切な飼養管理技術、病虫害対策や園芸農家での適切な花粉交配用蜜蜂の取扱による蜜蜂の損耗防止技術等の養蜂振興に関する情報を提供する。

① 蜜蜂の採蜜・衛生管理台帳

採蜜から消費者へのはちみつを提供する過程を特定し、緊急事態発生時にすぐに対応できるようにするための「蜜蜂の採蜜・衛生管理台帳」について、改訂を行い日蜂協ホームページに掲載した。また、令和2年度養蜂等振興強化推進事業の養蜂技術指導講習会において「はちみつの瓶詰め等の製造におけるHACCP導入の手引書」等の講義を行い、周知に努めた。

2. 蜂病・薬害対策

蜂病・薬害対策等、蜜蜂の生命・健康を守ることへの支援を行い、蜜蜂の損耗を防止することにより蜂製品の生産拡大と花粉交配用蜜蜂の安定供給に寄与することを目

的とし、次の事業内容とする。

(1) 蜂病及び薬害の研究・検査・予防

① 蜜蜂被害事例調査への協力

農林水産省の「蜜蜂の農薬被害事例に関する調査・報告」が平成 27 年度で終了し、「蜜蜂被害事例調査（平成 25 年度～27 年度）の結果及び今後の取組について」の公表があった。その後も農薬の関与が疑われる被害事例について、継続して平成 28 年度、29 年度、30 年度、令和元年度と調査が行われてきた。

令和 2 年度も農林水産省消費・安全局農産安全管理課長及び生産局畜産部畜産振興課長より令和元年度と同様の協力依頼通知（令和 2 年 6 月 30 日付）があったので、農薬によると思われる蜜蜂被害が発生した場合は、都道府県の畜産部局及び農薬指導部局（その所属又は関係する部署・出先機関）に連絡し、その後の対応は、行政機関の指示に従うよう都道府県団体に協力依頼（令和 2 年 7 月 2 日付）した。（死虫の分析の判断等は、各都道府県畜産担当部局が行う）。

また、同時に、日蜂協へも『蜜蜂被害報告書』にて連絡をするよう、会員へ通知した。

② 2020 年度農薬工業会蜜蜂訪花調査事業

農薬工業会より 2020 年度農薬工業会蜜蜂訪花調査事業への試料提供の協力要請があったので、10 名の養蜂家へ協力を要請した。

③ 松くい虫防除による蜂群の危被害対策

本年度の松くい虫防除事業の実績は次のとおりである。

◎令和 2 年度（計画）

防除実施面積（全国）…………… 11,899ha（12,644ha）

（ ）内は前年度確定実績（農林水産省ホームページ「農林水産航空事業」より）

(2) 薬剤対策

蜂病に対する予防薬・治療薬の開発や、薬剤実用化により蜜蜂の損耗防止に役立てることとし、当面は腐蛆病予防薬及びダニ駆除剤等に取り組む。

① タイラン水溶散について

J R A 助成事業のみつばち腐蛆病予防薬活用等調査研究事業活用して、蜜蜂腐蛆病予防薬タイラン水溶散の蜂蜜への移行に関する調査を行い、日本の蜜蜂の飼養実態に即した使用上の留意事項の策定及び残留基準値の検討に必要なデータの収集と分析並びにペーストによる投与方法の検討に必要なデータの収集と分析を行うための残留試験を行った。

また、収集したデータ等を取りまとめた試験報告書をタイラン水溶散のペー

ストによる投与方法の追加承認申請を行うエランコジャパン株式会社に提供した。

② 腐蛆病予防薬使用後の追跡調査

平成3年以降のみつばち腐蛆病発生状況は下記のとおりである。

年度	発生群数	年度	発生群数
3	547	18	247
4	391	19	280
5	546	20	372
6	657	21	266
7	752	22	96
8	400	23	175
9	511	24	127
10	238	25	230
11	350	26	168
12	200	27	130
13	470	28	89
14	710	29	74
15	167	30	135
16	247	令和元	104
17	320	令和2	49

※令和2年度の発生群数は、8月末現在

(農水省ホームページ「監視伝染病の発生状況」より)

③ チモバールについて

6月1日より、ミツバチヘギイタダニ駆除剤として「チモバール（アリストヘルスアンドニュートリションサイエンス株式会社発売）」の斡旋を新たに開始した。また、用法及び用量を必ず守って使用してもらうための注意喚起を日蜂通信に掲載した。

なお、令和2年度養蜂等振興強化推進事業において、ダニ被害状況調査におけるチモバール使用後のアンケート調査を実施した。

(3) 衛生対策

器具・機材の消毒や蜂場の衛生対策を実施することにより、蜜蜂の損耗防止に寄与する。

① 微酸性電解水による器具・機材の衛生対策について

前年度と同様、令和2年度においても養蜂等振興強化推進事業において、微酸性電解水による器具・機材の衛生対策の技術指導方法等について、養蜂技術指導手引書等を用いて、広島県及び鹿児島県において講習会を開催した。今後、青森県、東京都、三重県、熊本県において講習会を開催する予定。

3. 蜂製品の消費者安定供給事業

農業・食料・環境等の観点から、蜂製品の貢献・重要性について国内及び世界の蜂製品関係団体・消費者団体・研究機関等との交流等により情報を収集し、また、広く養蜂家等に対し情報を提供することにより、蜂製品の安定供給と消費拡大に寄与する。

(1) 蜂製品の分析

① 蜂蜜中の残留農薬モニタリング

蜂蜜中の残留農薬モニタリングは、同様の条件で複数回実施することにより、長期的な動向が把握できることから、前年と同様、会員が生産している蜂蜜について、頻出する残留農薬の把握及び残留農薬基準値設定に関する基礎資料として、蜂蜜に残留する可能性のある 200 項目以上の殺虫剤及び殺菌剤等についてモニタリングを実施した。

令和 2 年残留農薬モニタリングは果樹の蜂蜜 15 検体を収集し、分析を実施した。なお、ニュージーランドの第一次産業省が、マヌカハニーに除草剤の成分であるグリホサートが検出される旨の調査報告書を公表したことが本年 7 月頃報道されたことから、国産蜂蜜におけるグリホサートの残留状況を調査する為、分析項目に追加した。

② 農薬成分イミダクロプリド及びクレソキシムメチルモニタリング

令和元年 8 月に東京都にあるアンテナショップ「香川・愛媛せとうち旬彩館」で販売した蜂蜜（みかん）からイミダクロプリドが検出され自主回収となったことを受け、蜂蜜中のイミダクロプリド残留農薬基準値設定に必要なデータを収集するためのモニタリングを実施した。

また、和歌山県養蜂協会が県産はちみつを独自に分析した結果、クレソキシムメチル（殺菌剤に含有）が検出されたとの報告があったので、イミダクロプリドのモニタリングに加えクレソキシムメチルのモニタリングも実施する。

なお、令和 2 年イミダクロプリド及びクレソキシムメチルモニタリングは、果樹からの蜂蜜を中心に 70 件を収集し、分析を実施した。

(2) 養蜂関係団体との意見交換

国内・国外の養蜂関係団体との意見交換により、最新の養蜂・蜂製品に関する技術情報、規格等の情報の収集及び提供を行う。

① アピモンディア（世界養蜂協会連合会）

2020 年度もアピモンディアへ会費の支払いを行った。なお、2021 年にロシア・ウファで開催予定だった第 47 回アピモンディア総会は、新型コロナウイルスの影響により 2022 年の開催に変更された。なお、第 48 回は、チリ・サンチアゴで開催される予定。

(3) 消費者団体との意見交換

① 蜂蜜の品質向上及び蜂蜜の普及を促進する共進会への支援

会員団体からの要請により、蜂蜜の品質向上と消費拡大のための品評会において、優秀な出品物に対して「日本養蜂協会会長賞」を授与した。

第 33 回福島県はちみつ品評会（8 月 27 日）

第 8 回青森県はちみつ品評会（10 月 8 日）

4. 蜜源・蜜蜂安定供給対策事業

蜜蜂の安定供給のため、蜜源の病虫害防止、保護増殖、蜜蜂の適正管理等により限りある蜜源の有効利用を促進し、蜂製品の安定供給に寄与する。

(1) 蜜源植物の病虫害防除対策

蜜源植物の病虫害を防除することにより蜜源の損耗を防止し蜂製品の安定供給を図るため、レンゲの花を食害する外来害虫アルファルファタコゾウムシの天敵蜂として農薬登録をしたヨーロッパトビチビアメバチ (Ba) の生産及び配布を行う。

① Ba 繭の生産

令和元年度に委託生産された Ba 繭が少数であったため、本年度も希望する団体への配布は行わなかった。なお、Ba 生産を委託していた岡山県養蜂組合連合会より生産者の高齢化により生産の継続が困難との話があり、協議の結果、本年度で Ba 繭の生産を終了することとした。

(2) 蜜源保護増殖対策

蜜源の保護増殖を行うことにより、養蜂振興と蜂製品の安定供給を図る。

① レンゲ、ヘアリーベッチ、菜種等の幹旋について

無償配布用蜜源植物として菜種（キザキノナタネ）種子（1 袋 25 kg）、ヘアリーベッチ種子（1 袋 20 kg）を希望する団体には、1 団体当たり 4 袋を上限に無償で配布することとした。その結果、菜種は 28 団体から 59 袋（1,475 kg）、ヘアリーベッチは 34 団体から 88 袋（1,760 kg）の希望があった。

また、蜜源確保のためレンゲ、ヘアリーベッチ、菜種（キザキノナタネ）種子の幹旋配布に加え、本年度より、ナナシキブ（暖地向け菜種種子）及びウインターベッチ種子の幹旋配布を開始した。

なお、平成 30 年にタキイ種苗株式会社へ注文をした無償配布用及び幹旋配布用のビービーツリー苗木については、10 月 26～27 日に注文者へ発送された。

(3) 蜜蜂移動分布調整対策

① 蜂群の適正配置等に係るアンケート調査への協力

8 月 28 日付 2 生畜第 982 号「蜂群の適正配置等に係るアンケートについて」

にて、農林水産省生産局畜産部畜産振興課長よりアンケート調査への協力依頼があったので、各都道府県団体へ調査への回答を依頼した。

IV 養蜂関連物資斡旋事業

1. 養蜂飼料の合理的価格設定による定期的配給の実施

(1) 養蜂飼料価格安定基金について

養蜂飼料の価格が急騰した際に養蜂家の経営の圧迫を最小限に抑えるための基金を平成 17 年度に設立し、平成 23 年度から基準価格を 190 円/kgとしたが、令和 2 年の価格は 121 円/kg～124 円/kgで推移し、発動はされていない。

(2) 養蜂飼料の配給実績

①令和 2 年建勢飼料実績	26,406 袋	528 t	前年対比	86.0%
令和元年	〃	30,707 袋	614 t	前年対比 103.4%
平成 30 年	〃	29,696 袋	594 t	前年対比 98.7%
②令和 2 年越夏飼料実績	28,418 袋	568 t	前年対比	89.5%
令和元年	〃	31,746 袋	635 t	前年対比 107.9%
平成 30 年	〃	29,435 袋	589 t	前年対比 93.1%
③令和 2 年越冬飼料実績	44,133 袋	883 t	前年対比	96.7%
令和元年	〃	45,629 袋	913 t	前年対比 110.8%
平成 30 年	〃	41,182 袋	824 t	前年対比 98.7%
④令和 2 年計	98,957 袋	1,979 t	前年対比	91.6%
令和元年計	108,082 袋	2,162 t	前年対比	107.7%
平成 30 年計	100,312 袋	2,006 t	前年対比	97.0%

2. 新しい斡旋物資について

以下の物資を新しく日蜂協斡旋物資に加えた。

- (1) チモバール（チモールを主成分とするミツバチヘギイタダニの駆除剤）
- (2) マッスルスーツ Every（作業等による腰の負担を軽減させる器具）
- (3) ビン用裏ラベル（表示を一部変更）

物 品 幹 旋 状 況

令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

(金額単位:円)

種 類		令和2年		令和元年		対前年比 (数量)
		数 量	金 額	数 量	金 額	
ビ ン	200g用	8,400	554,400	5,124	333,748	163.9%
	600g用	58,368	5,104,281	58,896	5,071,005	99.1%
	1kg用	68,120	8,572,220	72,000	8,920,545	94.6%
	2kg用	8,940	1,552,133	10,872	1,858,165	82.2%
	(計)	143,828	15,783,034	146,892	16,183,463	97.9%
ボ ト ル	200g用	7,200	201,960	7,200	199,308	100.0%
	250g用	9,000	237,600	9,600	249,408	93.8%
	(計)	16,200	439,560	16,800	448,716	96.4%
ラ ベ ル (表)	200g用	12,838	80,696	11,438	70,940	112.2%
	600g用	63,816	421,185	47,412	307,987	134.6%
	1kg用	42,561	280,902	53,838	349,737	79.1%
	2kg用	3,968	27,761	6,584	42,712	60.3%
	(計)	123,183	810,544	119,272	771,376	103.3%
ラ ベ ル (裏)	200g用	11,718	51,559	9,408	40,765	124.6%
	600g用	60,560	266,464	51,770	224,604	117.0%
	1kg用	51,120	226,267	42,890	185,703	119.2%
	2kg用	8,650	47,575	6,880	29,767	125.7%
	(計)	132,048	591,865	110,948	480,839	119.0%
化 粧 箱	600g用	3,200	225,280	4,400	304,896	72.7%
	1kg用	9,300	736,560	8,900	693,072	104.5%
	2kg用	100	10,010	885	86,977	11.3%
	2kg用(新規)	2,700	282,150	900	93,100	300.0%
	(計)	15,300	1,254,000	15,085	1,178,045	101.4%
花名シール		215,450	236,995	134,350	144,653	160.4%
キャップ		364	4,212,208	372	4,238,508	97.8%
ゴールドキャップ(200g用)		105	223,146	61	127,936	172.1%
キャップシール		108	712,800	97	630,480	111.3%
キャップシール(200g用)		10	77,000	5	37,940	200.0%
ボトル用ノズルキャップ		15,800	278,080	16,850	292,272	93.8%
ドライヤー		3	33,943	5	55,544	60.0%
刷込みラベル(表)		—	—	—	—	—
刷込みラベル(裏)		21,400	117,700	30,000	162,600	71.3%
パッキン		355	2,343	500	3,252	71.0%
包 装 紙		1,500	9,900	1,000	6,540	150.0%
飼 料	建勢用	528,120	72,009,965	614,140	84,101,204	86.0%
	越冬用	568,360	78,065,155	634,920	86,933,241	89.5%
	越冬用	882,660	118,399,393	912,580	122,580,327	96.7%
	(計)	1,979,140	268,474,513	2,161,640	293,614,772	91.6%
強化飼料	ビーハッチャー	1,599	17,187,970	1,574	16,675,331	101.6%
	ビーハッチャー(小口)	50	189,750	50	186,576	100.0%
	ビーブリード(10kg)	385	5,445,363	482	6,705,446	79.9%
	ビーブリード(5kg)	40	335,280	24	197,662	166.7%
	ビーブリード(1kg)	27	56,578	34	69,989	79.4%
	プラスチックレー	147	123,215	160	131,764	91.9%
	スーパービー(50群用)	258	1,714,886	289	1,894,517	89.3%
	スーパービー(10群用)	22	46,101	31	63,855	71.0%
	ハイブアライブ	80	784,080	153	1,256,103	52.3%
	ハイブアライブ(小口)	118	316,800	42	119,793	281.0%
粉 糖	アピタミン(1kg)	11	64,130	20	114,480	55.0%
	アピタミン(5kg)	65	1,129,700	77	1,314,244	84.4%
	タイラン水溶散用(1kg)	224	258,720	206	234,066	108.7%
	タイラン水溶散用(200g)	8	5,280	8	5,184	100.0%
	レンゲ	1,163	10,490,260	1,264	10,281,795	92.0%
	ヘアリーベッチ	206	1,563,540	235	1,759,500	87.7%
	ウインターベッチ	5	79,750	—	—	—
	なたね(キサキノタネ)	70	621,775	79	690,251	88.6%
	なたね(ナナシキ)	7	88,550	—	—	—
	ビービーツル苗木(H30)	102	325,380	—	—	—
フ ェ リ ー	函館～青森	50	2,325,711	69	2,095,526	72.5%
	函館～大間	0	0	0	0	—
	苫小牧～八戸	20	844,000	29	1,143,117	69.0%
	室蘭～八戸	2	66,974	2	70,102	100.0%
	新潟～小樽	19	973,721	18	940,832	105.6%
	新潟～苫小牧	6	559,117	10	730,787	60.0%
	秋田～苫小牧	5	194,439	5	259,330	100.0%
	苫小牧～敦賀	60	4,112,934	69	3,598,996	87.0%
	舞鶴～小樽	35	2,919,899	51	3,164,878	68.6%
	(計)	197	11,996,795	253	12,003,568	77.9%
エキガード(30kg)		69	2,011,350	69	1,985,910	100.0%
エキガード(10kg)		10	116,600	20	240,408	50.0%
パンフレット		200	7,700	100	3,780	200.0%
チ ラ シ		1,900	29,260	6,400	106,488	29.7%
溶 解 機		2	75,429	1	37,028	200.0%
糖 度 計		8	210,375	7	150,660	114.3%
パロアイジーチェック		5	15,400	65	177,923	7.7%
着脱式三角コマ		11	48,400	12	51,920	91.7%
マッスルスーツ(S-Mサイズ)		5	687,500	—	—	—
マッスルスーツ(M-Lサイズ)		8	1,100,000	—	—	—

物 品 取 次 状 況

令和2年1月1日から令和2年12月31日まで

種 類	令 和 2 年			令 和 元 年			対前年比 (数量)
	数 量	単 位	金 額	数 量	単 位	金 額	
ダニ:日農アピスタン(50群用)	778		25,246,100	1,318		42,010,360	59.0%
ダニ:日農アピスタン(10群用)	402	ケース	2,741,640	557	ケース	3,734,632	72.2%
ダニ:アピパール(50群用)	4,304		134,688,180	3,762		118,451,462	114.4%
ダニ:アピパール(10群用)	527		3,768,050	613		4,314,948	86.0%
ダニ:チモパール(50群用)	728	セット	26,940,060	—	セット	—	—
ダニ:チモパール(10群用)	232		2,143,680	—		—	—
タイラン水溶散	80	本	2,622,400	65	本	2,093,152	123.1%

V 組織強化事業

1. 日蜂通信の発行

会員への活動状況及び養蜂に係る情報提供の為に取組んでおり、年 10 回の発行に努めている。

2. 各種会議の活動の展開

総会、理事会、委員会等の組織活動に積極的に取り組んだ。

3. 日蜂協定款及び規程の見直しについて

第 79 回通常総会において、以下のように定款及び規程を変更をした。

(1) 定款について、理事及び監事は会員の代表者から選任され、理事及び監事は相互に兼ねることができない。

(2) 役員選出基準について、地方選出理事は、原則全国 9 地域から各 1 名を選出することとし、北部ブロック、中部ブロック、南部ブロックの区分けは削除する。また、全国選出理事と地方選出理事を兼ねることはできない。

(3) 役員選出基準の選考委員会について、選考委員会は各地域から推薦された選考委員 1 名によって構成され、全国選出理事候補及び監事候補は選考委員になれない。また、選考委員会は原則書面開催とし、問題があるときに選考委員の 2/3 以上の賛成をもって、対面での選考委員会を開催する。

(4) 役員選出基準について、監事の推薦については、選考委員会の「合議」ではなく「選考委員の 2/3 以上の賛成」とする。

4. 組織強化のための会員加入組織率の向上

(1) 日蜂協ブロック大会

例年開催している日蜂協ブロック大会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各ブロックからの申し出により、本年度は全て中止することとなった。なお、ブロック大会開催予定地の団体において、各ブロックからの意見についてとりまとめ、日蜂協事務局まで報告してもらった。

(2) 施設賠償等総合補償保険

蜜蜂に関する保険は、日蜂協が長年にわたって実施しているこの保険以外にはなく、新しく作ることは難しい。

なお、この保険は一般社団法人日本養蜂協会が保険契約者となる団体契約であり、加入できるのは、加入申込人・記名被保険者が日蜂協会員に限られる。また、以前より会員から要望のあった蜂箱単独の盗難被害、台風・水災等による自然災害（地

震災害は除く）を補償するプランも新たに加えられた。

- ① 蜂箱の所有・使用・管理に起因する賠償責任（施設所有（管理）者賠償責任保険）
- ② 製品の製造、販売に起因する賠償責任（生産物賠償責任保険）
- ③ 養蜂箱に生じた偶然な事故による損害補償（動産総合保険）
- ④ 令和2年度の加入者は138件（元年度は144件）

（2）表彰行事の実施

永年養蜂業界の発展に貢献された方に対して、第79回通常総会（令和2年2月）の場において表彰規程に基づき、会長感謝状と記念品を贈呈した。

【中央表彰】

北海道：菅野富二氏	元日蜂協理事
新潟県：井出秀雄氏	元日蜂協理事
島根県：森 鐵夫氏	元日蜂協理事
佐賀県：故百武邦烈氏	元日蜂協理事・監事

【地方表彰】

北海道：高見純一氏	元道副会長
福島県：森 豊喜氏	元県会長
埼玉県：高田土一氏	現県理事
和歌山県：坂東忠則氏	元県理事
高知県：和田繁美氏	元県副組合長
福岡県：鹿野瑞穂氏	元県理事・監事
鹿児島県：故有馬純忠氏	元県理事

VI その他の事項の取り組み

1. 食品衛生法等の一部改正

- (1) はちみつの瓶詰等の製造におけるHACCP（ハサップ）導入の手引書について
平成30年6月13日に公布された食品衛生法等の一部を改正する法律により、原則としてすべての食品等事業者がHACCPに沿った衛生管理に取り組むこととなった。そのため、日蜂協及び一般社団法人全国はちみつ公正取引協議会の両者で協議を行い、はちみつの瓶詰等の製造におけるHACCP導入の手引書を作成した。

手引書を厚生労働省に提出後、令和元年12月26日に行われた第21回食品衛生管理に関する技術検討会（日蜂協からは羽佐田副会長、山時常務が出席）で審議が行われ、厚生労働省ホームページに掲載されることとなった。日蜂協では周知徹底のため各会員団体へ手引書を送付し、日蜂協ホームページ及び日蜂通信に掲載し、さらに、令和2年度養蜂等振興強化推進事業の養蜂技術指導講習会において、周知に努めた。

なお、ミツバチの飼養管理から採蜜までは、日蜂協で作成した「蜜蜂の採蜜・衛生管理台帳」に基づく記帳を行うこととなっている。

- (2) はちみつの瓶詰等の製造における営業届出制度の創設及び食品衛生責任者の設置について

食品衛生法等の一部改正に伴う営業届出制度の創設及び食品衛生責任者の設置について日蜂通信に掲載し、さらに、令和2年度養蜂等振興強化推進事業の養蜂技術指導講習会において周知に努めた。

2. 花粉交配用蜜蜂情報交換会開催

1月7日（火）に、花粉交配用蜜蜂の需給状況について、花粉交配用蜜蜂販売業者と日蜂協役員との情報交換会が行われた。

3. ミツバチ盗難についての注意喚起

第79回総会において、各地でミツバチの盗難が発生しているとの報告があり、同日開催された第268回理事会で対応を協議した結果、「ミツバチの盗難についての注意喚起及び被害状況調査について」を各都道府県会員団体へ送付し、注意喚起を行った。

4. 農林水産省との打ち合わせについて

養蜂に関わる問題点等について、農林水産省担当部局と協議を重ねた。

- (1) 1月15日 生産局畜産部畜産振興課訪問（柳下副会長、山時常務）

本年度の花粉交配用ミツバチ需給状況等について

- (2) 3月19日 生産局畜産部畜産振興課、畜水産安全管理課訪問（羽佐田副会長、山時常務）

消費者庁訪問の報告

会員より出された意見について
花粉交配用蜜蜂不足に関わる問題について
タイラン水溶散に関する件について

- (3) 11 月 27 日 生産局畜産部畜産振興課、消費・安全局農産安全管理課農薬対策室（羽佐田副会長、柳下副会長、山時常務）訪問
令和 2 年度の蜜蜂農薬被害状況等について

5. 消費者庁との打ち合わせについて

- (1) 3 月 19 日 消費者庁食品表示企画課（羽佐田副会長、山時常務）
はちみつ販売の際の表示責任者の記載について

6. 自由民主党養蜂議員連盟及び令和 3 年度養蜂等振興強化推進事業等についての打ち合わせ・会議

平成 16 年に設立されてその後活動を休止していた自由民主党養蜂振興議員連盟について、この度改組して新たに養蜂議員連盟が設立されたことに伴い、設立総会及び打合せ等を行った。また、これに伴い、令和 3 年度養蜂等振興強化推進事業等についての打ち合わせも行った。

- (1) 6 月 18 日 森山衆議院議員、藤木参議院議員を訪問（柳下副会長、山時常務）
(2) 7 月 1 日 大島会長と打ち合わせ（山時常務）
(3) 7 月 2 日 農林水産省生産局畜産部畜産振興課と打ち合わせ（柳下副会長、山時常務）
(4) 7 月 15 日 大島会長と打ち合わせ（柳下副会長、山時常務）
(5) 7 月 17 日 藤木参議院議員と打ち合わせ（柳下副会長、山時常務）
(6) 7 月 17 日 自由民主党本部政務調査会訪問（柳下副会長、山時常務）
(7) 7 月 27 日 自由民主党養蜂議員連盟設立総会出席（羽佐田副会長、柳下副会長、山時常務）
(8) 7 月 29 日 農林水産省生産局畜産部畜産振興課と打ち合わせ（山時常務）
(9) 9 月 29 日 農林水産省生産局畜産部畜産振興課と打ち合わせ（山時常務）
(10) 10 月 9 日 大島会長を訪問（羽佐田副会長、柳下副会長）
(11) 10 月 9 日 農林水産省生産局畜産部畜産振興課と打ち合わせ（羽佐田副会長、柳下副会長）
(12) 10 月 9 日 自由民主党本部政務調査会を訪問（羽佐田副会長、柳下副会長）
(13) 10 月 9 日 森山衆議院議員を訪問（羽佐田副会長、柳下副会長）
(14) 10 月 13 日 藤木参議院議員と打ち合わせ（羽佐田副会長、柳下副会長、山時常務）
(15) 10 月 13 日 農林水産省生産局畜産部畜産振興課と打ち合わせ（羽佐田副会長、柳下副会長、山時常務）
(16) 10 月 22 日 農林水産省生産局畜産部畜産振興課と打ち合わせ（山時常務）

- (17) 10 月 30 日 農林水産省生産局畜産部畜産振興課と打ち合わせ（山時常務）
- (18) 11 月 24 日 自由民主党政務調査会での打ち合わせ（山時常務）
- (19) 11 月 27 日 自由民主党養蜂議員連盟総会出席（羽佐田副会長、柳下副会長、山時常務）
- (20) 11 月 27 日 農林水産省消費・安全局農産安全管理課農薬対策室及び生産局畜産部畜産振興課と打ち合わせ（羽佐田副会長、柳下副会長、山時常務）